

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9
マルチ・ファンデーション UNIX
PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
マルチ・ファンデーション UNIX PeopleBook
SKU AC89JMFU0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為(過失および故意を含む)のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

概要.....	1
エンタープライズ・サーバーへの複数のファンデーション・コードのインストール.....	2
新規の UNIX ユーザーとグループの作成.....	3
▶ 新規の UNIX ユーザーとグループを作成するには (HP 9000 または Solaris)	3
▶ 新規の UNIX ユーザーとグループを作成するには (RS/6000)	5
▶ 既存のユーザーから新規ユーザーに .oneworld と .profile をコピーするには.....	6
新規のホスト・コード・ディレクトリの作成.....	6
▶ 新規ホスト・コード・ディレクトリを作成するには.....	6
▶ 新規ディレクトリに所有権と権限を付与するには.....	6
▶ .oneworld ファイルを編集するには.....	7
▶ パス・コードを新規ディレクトリに移動するには.....	7
▶ 残りのディレクトリを作成するには.....	7
▶ JDE.INI を新規ディレクトリにコピーするには.....	8
エンタープライズ・サーバーへの新規サービス・パックのインストール.....	8
▶ サービス・パック CD からエンタープライズ・サーバーに新規サービス・パックをインストールするには.....	8
▶ Knowledge Garden® からダウンロードした新規サービス・パック・ファイルをエンタープライズ・サーバーにインストールするには.....	9
JDE.INI ファイルの編集.....	11
▶ jde.ini ファイルを編集するには.....	11
▶ RunOneWorld および EndOneWorld スクリプトを編集するには.....	12
PORTTEST の実行.....	13
▶ PORTTEST を実行するには.....	13
▶ ERP 9.0 のサービスを開始するには.....	13
クライアントの JDE.INI ファイルの編集.....	14
▶ クライアントの jde.ini ファイルを編集するには.....	14
デプロイメント・サーバーへの複数のファンデーション・コードのインストール.....	15
▶ デプロイメント・サーバーに複数のサービス・パックをインストールするには.....	15
▶ 新規サービス・パック用の新規マシン・レコードを追加するには.....	17
▶ 環境を削除するために既存のマシン・レコードを修正するには.....	18
デフォルト以外のファンデーションを使用したパッケージの作成.....	19
デフォルト以外のファンデーションを使用したクライアント・パッケージの作成.....	19

▶ 特定のサービス・パックを使用してクライアント・パッケージを作成するには.....	19
デフォルト以外のファンデーションを使用したサーバー・パッケージの作成	24
▶ デプロイメント・サーバーからサーバー・パッケージを作成するには.....	24
▶ クライアントからサーバー・パッケージを作成するには.....	24
本稼働用環境への新規ファンデーション・コードのプロモート.....	25
▶ 新規ファンデーション・コードを本稼働用環境にプロモートするには.....	25

概要

このガイドに記載されている手順で操作すると、サービス・パックをインストールする時に特定の環境を対象として指定できます。たとえば、既存のファンデーションで運用中の本稼働用環境を維持しつつ、他のすべての環境に新規のサービス・パックを適用できます。この構成では、本稼働用環境に影響を与えずに、新規のファンデーション・コードでのテストを実行できます。テストの完了後は、本稼働用環境にその新規サービス・パックを適用できます。

単一のエンタープライズ・サーバー上で多数のファンデーションを処理するように ERP 9.0 を構成するには、以下のタスクを完了します。これらのタスクでは、複数のファンデーションを設定するためのパス・コードと jde.ini ファイルを再構成する必要がありますが、それらの初期タスクが完了した後の新規構成では保守管理作業がかなり軽減されます。

このガイドでは、次のタスクについて説明します。

- エンタープライズ・サーバーへの新規ホスト・コードのインストール
- クライアントの JDE.INI の編集
- デプロイメント・サーバーへの複数のサービス・パックのインストール
- デフォルト以外のファンデーションを使用したクライアント・パッケージの作成
- デフォルト以外のファンデーションを使用したサーバー・パッケージの作成
- 本稼働用環境への新規ファンデーションのプロモート

エンタープライズ・サーバーへの複数のファンデーション・コードのインストール

複数のファンデーションをインストールするには、最初にエンタープライズ・サーバーに新規システム・コードをインストールして構成する必要があります。この項では、次のタスクについて説明します。

- 新規の UNIX®ユーザーとグループの作成
- 新規のホスト・コード・ディレクトリの作成
- エンタープライズ・サーバーへの新規サービス・パックのインストール
- 固有の CLSID の作成
- JDE.INI ファイルの編集
- PORTTEST の実行
- サービスのインストールと開始

注:

ERP 9.0 の構成に ERP 9.0 のホスト・コードを実行する複数のサーバー(つまり、他のアプリケーション・サーバーやデータ・サーバー)が含まれている場合は、サーバーごとに複数ファンデーションのインストール手順を実行する必要があります。この種の構成を正常に機能させるには、次のことを確認してください。

-
- JDE.INI の[JDENET]セクションのポート設定が、同じファンデーションを実行するすべてのサーバー間で一致しているかどうかを確認します。
 - 新規サービスは、すべてのサーバー上で実行する必要があります。
 - インストールされているすべてのファンデーションのリリースについて、全サーバー上で PORTTEST を正常に実行する必要があります。

新規の UNIX ユーザーとグループの作成

▶ 新規の UNIX ユーザーとグループを作成するには(HP 9000 または Solaris)

工数	0.25
コンピュータ時間数	0.25
スタッフ	システム管理者
ログオン状況	HP 9000 または Solaris エンタープライズ・サーバー上で、root でログオンします。
前提条件	なし
同時に行うタスク	なし

次の手順に従って、HP 9000 または Solaris エンタープライズ・サーバー上で新規の UNIX 管理者ユーザーとグループを作成します。

- UNIX エンタープライズ・サーバー上で root(スーパー・ユーザー)でログオンします。この場合、UNIX ワークステーションから直接ログオンする方法と、Windows デプロイメント・サーバーから telnet を使用する方法があります。
- sam(HP 9000)または admintool(Solaris)プログラムを実行します。
- HP 9000 の場合：
[Accounts for Users and Groups(ユーザーとグループのアカウント)]を選択します。

Solaris の場合：
[Browse(表示)]を選択します。
- [Groups(グループ)]を選択します。
- [Action(処理)]メニュー(HP 9000)または[Edit(編集)]メニュー(Solaris)で[Add(追加)]を選択し、次のフィールドに値を入力します。
 - [Group Name(グループ名)]
ERP 9.0 の場合は“jdesp#”と入力します(#は、14 など、インストールするサービス・パックの基本リリースです)。
- グループ・リストを表示するには、[OK]をクリックします。
- jdesp#グループが表示されていることを確認します。

8. HP 9000 の場合 :

[List(リスト)]メニューから[Users(ユーザー)]を選択します。

Solaris の場合 :

[Browse]メニューから[Users]を選択します。

9. [Action]メニュー(HP 9000)または[Edit]メニュー(Solaris)で[Add]を選択します。

10. 次のフィールドに情報を入力して[OK]をクリックします。

- [Login Name(ログイン名)]

"/jdesp#"と入力します。

- [Home Directory]

"/home/jdesp#"と入力します。この場合、*home* は、作成した ERP 9.0 ユーザーのホーム・ディレクトリ名です。このフィールドには、ホーム・ディレクトリ名が自動的に設定される場合があります。

- [Primary Group]

"/jdesp#"と入力します。

- [Start-up Program(プログラムの起動)](HP9000)、[Login Shell(ログイン・シェル)](Solaris)

"/usr/bin/ksh"と入力するか、使用可能なシェルのリストから選択します。

11. パスワードを指定します。

HP 9000™の場合 : [OK]をクリックし、確認のためにパスワードを再入力します。[OK]をクリックします。

Solaris の場合 : ドロップダウン・メニューから[Normal Password(標準パスワード)]を選択し、パスワードを入力して確認し、[OK]をクリックします。

12. [OK]をクリックします。

13. SAM(HP 9000™)または admintool(Solaris)を終了します。

▶ 新規の UNIX ユーザーとグループを作成するには(RS/6000)

工数	0.25
コンピュータ時間数	0.25
スタッフ	システム管理者
ログオン状況	RS/6000 エンタープライズ・サーバー上で、root でログオンします。
前提条件	なし
同時に行うタスク	なし

次の手順に従って、RS/6000 エンタープライズ・サーバー上で新規 UNIX ユーザーとグループを作成します。

1. RS/6000 に root(スーパーユーザー)でログオンするか、Windows NT デプロイメント・サーバーから telnet を使用します。
2. smit プログラムを実行します。
3. [Security and Users(セキュリティおよびユーザー)]を選択します。
4. [Groups(グループ)]を選択します。
5. [Add a Group(グループの追加)]を選択します。
6. グループ jdesp#を追加します(#は、14 など、インストールするサービス・パックの基本リリースです)。
残りのフィールドにはデフォルト値を使用します。
7. [Security(セキュリティ)]メニューに戻り、[F3]キーを 3 回押します。
8. [Users]を選択します。
9. [Add a User(ユーザーの追加)]を選択します。次のフィールドに値を入力します。
 - [User Name(ユーザー名)]
"jdesp#"と入力します。
 - [Primary Group]
"jdesp#"と入力します。
 - [Home Directory]
"/home/jdesp#"と入力します。この場合、home は、作成した ERP 9.0 ユーザーのホーム・ディレクトリ名です。

- [Initial Program(初期プログラム)]
"/bin/ksh"と入力します。

10. [Enter]を押します。
11. 終了するには[F3]キーを押します。
12. jdesp#のパスワードを割り当てるには、"passwd jdesp#"と入力します。

▶ **既存のユーザーから新規ユーザーに.oneworld と.profile をコピーするには**

1. 既存の UNIX ユーザーのホーム・ディレクトリ(jdeb7334 など)にアクセスします。
2. .oneworld ファイルを、前の手順で作成した新規ユーザーのホーム・ディレクトリにコピーします。

```
cp .oneworld .profile /home/u
```

(*u*は、前の手順で作成した新規ユーザーの名前)

新規のホスト・コード・ディレクトリの作成

次の手順に従って、新規のホスト・コード・ディレクトリを作成します。

▶ **新規ホスト・コード・ディレクトリを作成するには**

1. エンタープライズ・サーバー上で、u01/JDEdwardsOneWorld/ディレクトリに移動します。u01 は、ERP 9.0 のホスト・コードがインストールされている共有ディレクトリです。
2. そこで、テスト対象のサービス・パック用に新規ディレクトリを作成します(B7332SPTEST、B7334_DVJDPY など)。

```
mkdir -p y (yは、新規ホスト・コード・ディレクトリ名)
```

新規ディレクトリは、新規サービス・パックと、そのサービス・パックにアクセスするパス・コードを格納するために使用されます。

▶ **新規ディレクトリに所有権と権限を付与するには**

次のコマンドを入力して、新規ディレクトリに所有権と権限を付与します。

```
chmod 777 y
```

```
chown u y
```

```
chgrp g y
```

(y は新規ホスト・ディレクトリ名、u はユーザー名、g は前の手順で作成した新規グループ名)

▶ .oneworld ファイルを編集するには

1. 前の手順で作成した新規ユーザーの/home/*u* ディレクトリに移動します。
2. UNIX エディタを使用して、.oneworld ファイルを次のように変更します。前の手順で作成した新規ディレクトリのパスを使って EVRHOME を更新します。次に例を示します。

```
export EVRHOME=/uo1/jdedwardsoneworld/y
```

▶ パス・コードを新規ディレクトリに移動するには

1. u01/JDEdwardsOneWorld/B733x ディレクトリ(x は現行リリースの PTF/Cum 番号)から、新規サービス・パックにアクセスするパス・コードを選択し、それらを新規に作成したディレクトリに移動します。

```
mv -f p /u01/peoplesoft/y
```

(*p* は、JD7334 など、移動用に選択したパス・コード)

たとえば、本稼働用環境 (PROD、PD) を除くすべての環境で新規サービス・パックをテストする場合は、開発 (DEV、DV)、プリスティン (JDE オリジナル) (PRIST、JD)、およびプロトタイプ (CRP、PY) の各パス・コードを移動します。

警告:

パス・コードは、コピーするのではなく移動してください。1 つの環境に同時に複数のサービス・パックを関連付けしないでください。

2. 次のコマンドを入力して、移動したパス・コードに所有権と権限を付与します。

```
chmod -R 775 /u01/peoplesoft/y/p
```

```
chown -R u /u01/peoplesoft/y/p
```

```
chgrp -R g /u01/peoplesoft/y/p
```

▶ 残りのディレクトリを作成するには

1. エンタープライズ・サーバーに、前の手順で作成した新規ユーザーとしてログオンします。
2. 前の手順で作成した新規ディレクトリ(/u01/PeopleSoft/*y*)に移動します。その新規ディレクトリで、次のサブディレクトリを作成します (名前はすべて大文字と小文字が区別されます)。
 - ini

- packages
- PrintQueue

▶ JDE.INI を新規ディレクトリにコピーするには

1. `/u01/jdedwardsoneworld/b733x/ini` ディレクトリに移動します。
2. 次のコマンドを使用して、JDE.INI を `/u01/jdedwardsoneworld/y/ini` ディレクトリにコピーします。

```
cp JDE.INI /u01/peoplesoft/y/ini
```

3. 次のコマンドを入力して、ファイルの許可を変更します。

```
chmod 666 /u01/peoplesoft/y/ini/JDE.INI
```

エンタープライズ・サーバーへの新規サービス・パックのインストール

次の手順に従って、エンタープライズ・サーバー上で新規ホスト・コード・ディレクトリに新規サービス・パックをインストールします。ここでは、CD またはダウンロードした実行可能ファイルからインストールする手順を説明します。

▶ サービス・パック CD からエンタープライズ・サーバーに新規サービス・パックをインストールするには

ここでは、サービス・パック CD から UNIX エンタープライズ・サーバーに、新規システム・ディレクトリとサブディレクトリをインストールする方法について説明します。

次の手順で操作します。

1. サービス・パック(SP)CD の `¥hosts¥UNIX® server` ディレクトリから、`system.Z` ファイルをデプロイメント・サーバーにコピーします。

```
z:¥PeopleSoft¥b733¥hosts¥UNIX ® server directory
```

z:は ERP 9.0 がインストールされているドライブ、UNIX® server は使用する UNIX®エンタープライズ・サーバーのタイプ(HP 9000™、Sun、RS6000 など)です。

2. エンタープライズ・サーバーに、前の手順で作成した新規ユーザーとしてログオンします。たとえば、`jdesp14` としてログオンします。
3. エンタープライズ・サーバー上で、次の一時ディレクトリを作成するか、次のパスに存在していることを確認します。

```
/u01/peoplesoft/tmp
```

u01 は、J.D. Edwards インストールのマウント・ポイントです。このマウント・ポイントは、システムによっては異なる場合があります。

4. 一時インストール・ディレクトリに移動します。次に例を示します。cd /u01/PeopleSoft/tmp
5. ファイル転送プロトコル(FTP)を使用して、デプロイメント・サーバーの JDEdwardsOneWorld**733x**hosts**unix server**system.Z にある system.Z ファイルを、エンタープライズ・サーバー上の一時インストール・ディレクトリに移動します。

“ftp”に続けてデプロイメント・サーバー名を入力します。たとえば、“ftp devs1”と入力します。

パスワードと共にユーザーJDE でログオンします。パスワードは、大文字、小文字が区別されます。

次のコマンドを入力します。

```
cd z:/PeopleSoft/B733/hosts/ UNIX® server

binary

get system.Z

bye
```

6. エンタープライズ・サーバー上の一時ディレクトリから、次のコマンドを入力します。

```
chmod 777 system.Z (system.Z ファイルの許可を確実にします。)

zcat system | (cd /u01/jdedwardsoneworld/y; tar xvf -)
```

y は、前の手順で作成した新規ディレクトリです。

7. 次のコマンドを入力して B733x ディレクトリに移動し、許可を変更します。

```
cd /u01/jdedwardsoneworld/y/

chmod 555 system/lib/* system/libv32/*
```

▶ Knowledge Garden®からダウンロードした新規サービス・パック・ファイルをエンタープライズ・サーバーにインストールするには

ここでは、Knowledge Garden®からダウンロードした新規システム・ディレクトリとサブディレクトリを、UNIX エンタープライズ・サーバーにインストールする方法について説明します。

次の手順で操作します。

1. Knowledge Garden®からデプロイメント・サーバーに、UNIX®(HP 9000™、Sun、または RS6000) サービス・パックの実行可能ファイルをダウンロードします。

2. UNIX®サービス・パックの実行可能ファイルを実行します。

注:

デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location(このプログラムを上記の場所から実行する)]を選択できます。それ以外の場合は、[Save this program to disk(このプログラムをディスクに保存する)]を選択する必要があります。実行可能ファイル.exe をデプロイメント・サーバーに転送し、そこから実行します。実行可能ファイルは、一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。

3. ダウンロードによって次の処理が実行されます。

- デプロイメント・サーバー上の`¥hosts¥UNIX® server` ディレクトリに、ファイル `system.z` が作成されます。
(UNIX® server は、HP 9000™、Sun、RS6000 など、使用する UNIX®エンタープライズ・サーバーのタイプです。)

4. エンタープライズ・サーバーに、前の手順で作成した新規ユーザーとしてログオンします。たとえば、`jdesp14` としてログオンします。

5. エンタープライズ・サーバー上で、次の一時ディレクトリを作成するか、次のパスに存在していることを確認します。

```
/u01/peoplesoft/tmp
```

`u01` は、J.D. Edwards インストールのマウント・ポイントです。このマウント・ポイントは、システムによっては異なる場合があります。

6. 一時インストール・ディレクトリに移動します。次に例を示します。`cd /u01/PeopleSoft/tmp`

7. ファイル転送プロトコル(FTP)を使用して、デプロイメント・サーバーの `JDEdwardsOneWorld¥b733¥hosts¥UNIX® server¥system.Z` にある `system.Z` ファイルを、エンタープライズ・サーバー上の一時インストール・ディレクトリに移動します。

“ftp”に続けてデプロイメント・サーバー名を入力します。たとえば、“ftp devsl”と入力します。

パスワードと共にユーザー `JDE` でログオンします。パスワードは、大文字、小文字が区別されます。

次のコマンドを入力します。

```
cd z:/Peoplesoft/B9/hosts/UNIX 3 server
```

```
binary
```

```
get system.Z
```

```
bye
```

8. エンタープライズ・サーバー上の一時的ディレクトリから、次のコマンドを入力します。

```
chmod 777 system.Z (system.Z ファイルの許可を確実にします。)
```

```
zcat system | (cd /u01/jdedwardsoneworld/y; tar xvf -)
```

y は、前の手順で作成した新規ディレクトリです。

9. 次のコマンドを入力して B733x ディレクトリに移動し、許可を変更します。

```
cd /u01/peoplesoft/y/
```

```
chmod 555 system/lib/* system/libv32/*
```

JDE.INI ファイルの編集

次の手順に従って、新規サービス・パックに関連付けられているjde.ini ファイルを編集します。

▶ jde.ini ファイルを編集するには

1. エンタープライズ・サーバー上で、新規ホスト・コード・ディレクトリの下の/ini ディレクトリ (/u01/jdedwardsoneworld/y/ini など)に移動し、jde.ini ファイルを編集します。
2. jde.ini ファイルの[DEBUG]、[INSTALL]、[BSFN BUILD]の各セクションを探します。次の各エントリ内のパスを、新規ホスト・コード・ディレクトリを指すように変更します。

注:

次のエントリ内の y を、新規ホスト・コード・ディレクトリ名で置き換えてください。

```
[DEBUG]
```

```
DebugFile=u01/jdedwardsoneworld/y/log/jdeddebug.log
```

```
JobFile=u01/jdedwardsoneworld/y/log/jde.log
```

```
JDETSFile=u01/jdedwardsoneworld/y/log/JDETS.log
```

```
[INSTALL]
```

```
B733=u01/jdedwardsoneworld/y
```

[BSFN BUILD]

BuildArea= u01/jdedwardsoneworld/*y*/packages

3. [JDENET]セクションを探し、serviceNameList と serviceNameConnect のポート設定を探します。エントリごとに、番号に 100 を加算します。たとえば、設定がどちらも 6009 になっている場合は、6109 に変更します。

[JDENET]

serviceNameList=**6109**

serviceNameConnect=**6109**

4. [JDEIPC]セクションで、次のように startIPCKeyValue エントリに 1000 を加算します。

[JDEIPC]

startIPCKeyValue=**7000**

注:

値がコメント化されている場合は、コメント記号を削除します。

5. [SECURITY]セクションで、セキュリティをオフにするか、新規サービス・パックにアクセスする有効な環境を参照するように DefaultEnvironment を編集します。
6. 本稼働用環境 (PRODB733、PD7334 など) のすべての参照を、新規サービス・パックにアクセスする有効な環境 (CRPB733、PY7334 など) で置き換えます。

▶ **RunOneWorld および EndOneWorld スクリプトを編集するには**

1. /u01/jdedwardsoneworld/*y*/system/bin32 ディレクトリに移動します。
2. UNIX テキスト・エディタを使用して、RunOneWorld.sh スクリプトを次のように変更して編集します。**Variable Definitions** セクションで、**OWENV** セクションを新規サービス・パックにアクセスする有効な環境に変更します。次に例を示します。

OWENV="JD7334"

3. スクリプト EndOneWorld.sh も同様に変更します。

PORTTEST の実行

新規サービス・パックがエンタープライズ・サーバーに正常にインストールされたことを確認するために、次の手順に従って、新規サービス・パックにアクセスするすべての環境で PORTTEST を実行します。

注:

セキュリティ・サーバーが稼働している場合は、PORTTEST を実行する前に ERP 9.0 サービスを実行する必要があります。STRNET コマンドを使用して ERP 9.0 サービスを開始してください。

▶ PORTTEST を実行するには

1. エンタープライズ・サーバーに、前の手順で作成した新規ユーザーとしてログオンします。

2. 次のコマンドを入力します。

```
cd u01/peoplesoft/y/system/bin32
```

(*y* は、新規ホスト・コード・ディレクトリの名前)

```
PORTTEST userid password environment
```

(*userid* は有効な ERP 9.0 ユーザーID、*password* はそのユーザーのパスワード、*environment* は検証したい環境です。これらのパラメータでは、大文字と小文字が区別されます。)

3. 新規サービス・パックにアクセスする環境ごとに、PORTTEST コマンドを繰り返します。

▶ ERP 9.0 のサービスを開始するには

1. `/u01/peoplesoft/y/system/bin32` ディレクトリに移動します。

2. ERP 9.0 プロセスを開始するには、次のコマンドを入力します。

```
./RunOneWorld.sh
```

クライアントの JDE.INI ファイルの編集

ERP 9.0 クライアントから新規サービス・パックにアクセスするには、各クライアント上の jde.ini ファイルを、新規ディレクトリを指すように編集する必要があります。

新規サービス・パックにアクセスするパス・コードを含むすべての ERP 9.0 クライアント上で、次の手順で操作します。

注:

単一のクライアントで複数のサービス・パックにアクセスすることはできません。複数のサービス・パックにアクセスするには、サービス・パックごとに異なるクライアントをインストールする必要があります。そのためには、クライアントをインストールするたびに、スナップショット・アプリケーションを使用して各クライアントを保存する必要があります。

▶ クライアントの jde.ini ファイルを編集するには

1. ERP 9.0 ワークステーション上で Windows Explorer を開き、c:\%WINNT ディレクトリに移動します。
2. jde.ini ファイルを開きます。
3. ファイルの[JDENET]セクションを探し、serviceNameListen と serviceNameConnect のポート設定を編集します。次のエントリを、新規サービス・パック用のサーバー側 jde.ini ファイルのエントリと一致するように変更します。

```
[JDENET]
```

```
serviceNameList=portNumber
```

```
serviceNameConnect=portNumber
```

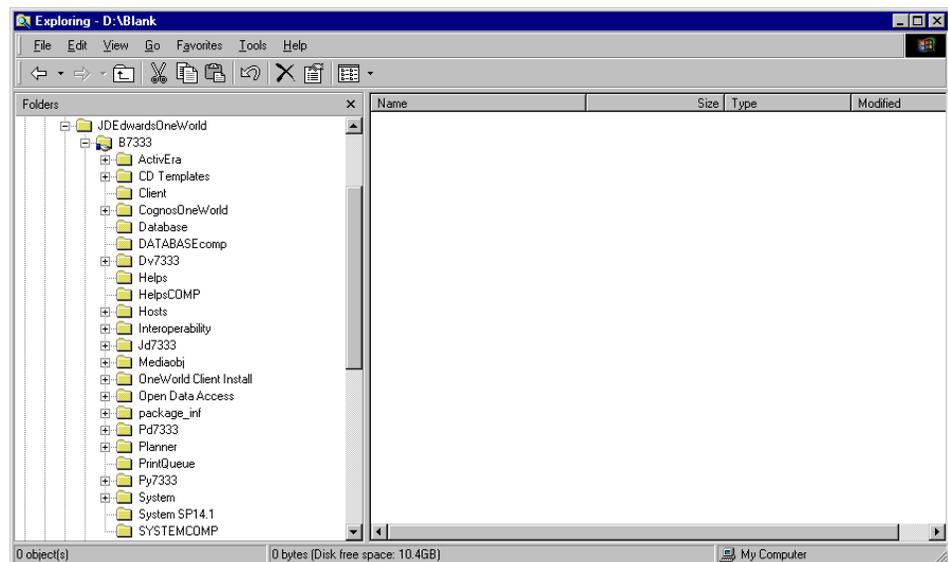
portNumber は、エンタープライズ・サーバー上で jde.ini ファイルに入力したのと同じポート番号です。

デプロイメント・サーバーへの複数のファンデーション・コードのインストール

次の手順に従って、デプロイメント・サーバーに複数のサービス・パックをインストールします。

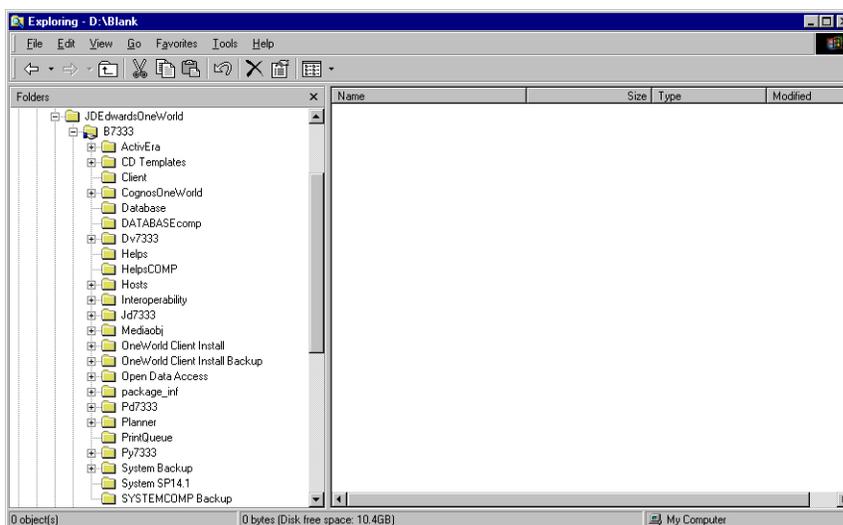
▶ デプロイメント・サーバーに複数のサービス・パックをインストールするには

1. デプロイメント・サーバー上で、z:\¥JDEdwardsOneWorld¥B733x ディレクトリに移動します。
(zは ERP 9.0 がインストールされているドライブ、x は現行リリースの PTF/Cum 番号です。)
2. B733x ディレクトリに、System SPy ディレクトリを作成します。y は、インストールするサービス・パックのリリース番号です(たとえば、“System SP14.1”と入力します)。



3. ¥JDEdwardsOneWorld¥B733x ディレクトリで、System および SYSTEMCOMP ディレクトリの名前を、それぞれ System.Backup および SYSTEMCOMP Backup に変更します。警告メッセージが表示される場合は、[OK]をクリックします。

4. ¥JDEdwardsOneWorld¥B733x ディレクトリで、サブディレクトリ OneWorld Client Install Backup を作成し、このバックアップ・ディレクトリに OneWorld Client Install ディレクトリをコピーします。

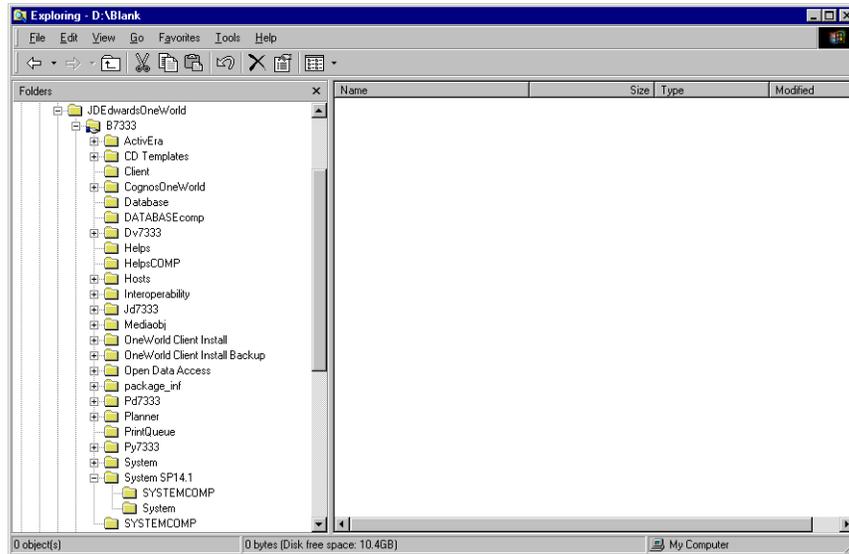


5. **CD からインストールする場合:** デプロイメント・サーバーの CD ドライブにサービス・パック CD を挿入し、インストール・プログラムを実行します。このプログラムによって、新規の System、SYSTEMCOMP、および ERP 9.0 Client Install ディレクトリがデプロイメント・サーバーにコピーされます。

ダウンロードした実行可能ファイルからインストールする場合: デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location(このプログラムを上記の場所から実行する)]を選択できます。それ以外の場合は、[Save this program to disk(このプログラムをディスクに保存する)]を選択する必要があります。実行可能ファイル.exe(複数の場合あり)をデプロイメント・サーバーに転送し、そこで実行します(ダウンロードした複数のクライアントをインストールする場合は、最初に CL download.exe を実行してから、他の.exe を実行します)。実行可能ファイルは、一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。

- a. ファイルを抽出中であることを示すボックスが表示されます。
 - b. JDE インストール・プログラムが自動的に起動します。〈JDE Installation Setup(JDE インストールのセットアップ)〉画面が表示されます。[Next]をクリックします。
 - c. 〈JDE Setup Type(JDE セットアップの種類)〉画面が表示されます。[完了]をクリックします。これによって、新規の System、SYSTEMCOMP、および ERP 9.0 Client Install ファイル/ディレクトリがデプロイメント・サーバーにインストールされます。
 - d. 完了すると、「J.D. Edwards Installation Complete(J.D. Edwards のインストール完了)」というメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。
 - e. 手順 a~d を、ダウンロードしたクライアントごとに繰り返します。
6. 新規にインストールした System および SYSTEMCOMP ディレクトリを、¥JDEdwardsOneWorld¥B733x¥System SPy ディレクトリに移動します。

7. System.backup および SYSTEMCOMP.backup ディレクトリの名前を、それぞれ System および SYSTEMCOMP に変更して、オリジナルのディレクトリを復元します。



▶ 新規サービス・パック用の新規マシン・レコードを追加するには

1. デプロイメント・サーバー上で、ERP 8.0 のデプロイメント環境にログインします。
2. [略式コマンド]メニューから、P9654A アプリケーションを実行します。
3. <ロケーション/マシンの処理>フォームで、[検索]をクリックしてロケーション・ツリーを展開します。
4. [エンタープライズ・サーバー]をクリックし、[追加]をクリックします。
5. <エンタープライズ・サーバーの改訂>フォームで、次のフィールドに情報を入力します。
 - [マシン名] - 既存の基本エンタープライズ・サーバーの名前を入力する必要があります。
 - [記述] - マシンの記述を入力します。
 - [リリース] - "B733x"と入力します(x はリリースの PTF/Cum 番号)。
 - [ホスト・タイプ] - ビジュアル・アシスト・ボタンをクリックし、エンタープライズ・サーバーのタイプを選択します。
 - [ポート番号] - 新規サービス・パックの JDE.INI で以前に設定したのと同じポート番号を入力する必要があります。
 - [データベース・タイプ] - エンタープライズ・サーバー上で使用するデータベースのタイプ。
 - [インストール・パス] - エンタープライズ・サーバー上で ERP 9.0 がインストールされているインストール・ディレクトリのパス。
6. [OK]をクリックします。(注: Oracle データベースの場合は、接続文字列の入力を求めるプロンプトが表示されます。接続文字列を入力または確認して[OK]をクリックします)。

7. 〈ロケーション/マシンの処理〉フォームで、[検索]をクリックしてツリーを展開します。
8. [エンタープライズ・サーバー]を展開し、新規に作成したマシンをクリックし、[選択]をクリックします。
9. 〈Enterprise Server Revisions〉で、フォームまたはロー・エグジットから[環境]をクリックします。
10. 〈マシン環境の改訂〉フォームで、新規サービス・パックにアクセス可能にする環境を追加します。この場合、グリッドに入力する方法と、ビジュアル・アシストを使用して選択する方法があります。
11. [OK]を 2 回クリックします。この操作によって〈ロケーション/マシンの処理〉に戻ります。

▶ **環境を削除するために既存のマシン・レコードを修正するには**

1. デプロイメント・サーバー上で、ERP 8.0 のデプロイメント環境にログインします。
2. [略式コマンド]メニューから、P9654A アプリケーションを実行します。
3. 〈ロケーション/マシンの処理〉フォームで、[検索]をクリックしてロケーション・ツリーを展開します。
4. [エンタープライズ・サーバー]を展開し、初期のエンタープライズ・サーバー・マシン・レコードをクリックし、[選択]をクリックします。
5. 〈エンタープライズ・サーバーの改訂〉フォームで、フォームまたはロー・エグジットから[環境]をクリックします。
6. 前項で追加した環境をすべて削除します。そして、本稼働用サービス・パック(PD7334 など)にアクセスする環境のみを残します。
7. [OK]を 2 回クリックします。

デフォルト以外のファンデーションを使用したパッケージの作成

デプロイメント・サーバーに新規ファンデーションをインストールし、そこにアクセスするように ERP 9.0 クライアントを構成した後、次の手順に従ってクライアント・パッケージとサーバー・パッケージを作成できます。

- デフォルト以外のファンデーションを使用したクライアント・パッケージの作成
- デフォルト以外のファンデーションを使用したサーバー・パッケージの作成

注:

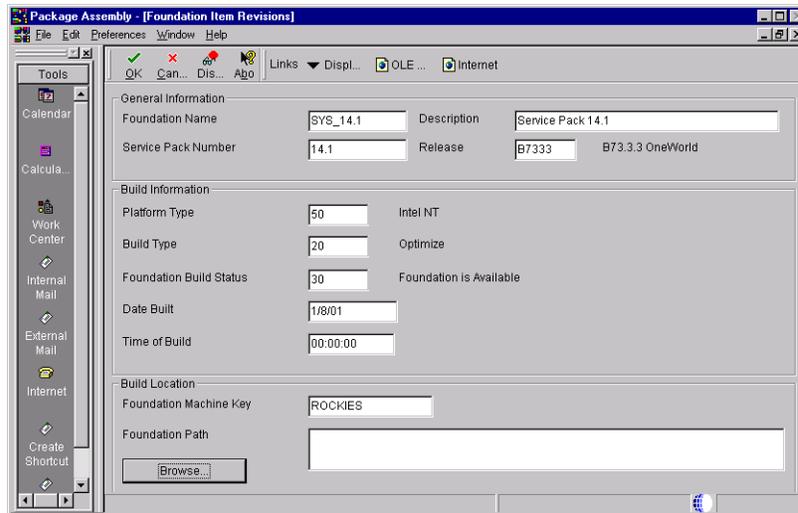
単一のクライアントで複数のサービス・パックにアクセスすることはできません。複数のサービス・パックにアクセスするには、サービス・パックごとに異なるクライアントをインストールする必要があります。そのためには、クライアントをインストールするたびに、スナップショット・アプリケーションを使用して各クライアントを保存する必要があります。

デフォルト以外のファンデーションを使用したクライアント・パッケージの作成

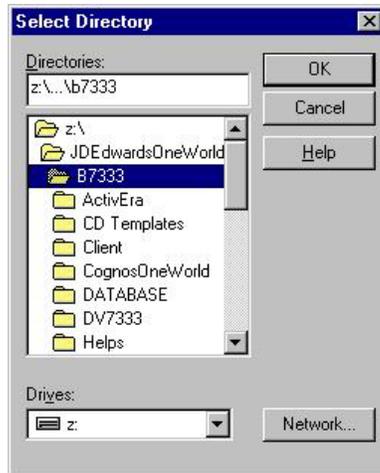
最も一般的なパッケージ作成方法は、ファンデーションのデフォルトを受け入れることです。デフォルトのファンデーションの位置は、パッケージのパス・コードに関連付けられているリリースによって決定されず、通常、この位置は、パス・コードと同じディレクトリ・レベルにあるシステム・ディレクトリです。次の手順では、〈ファンデーション・コンポーネント〉フォームに表示されるデフォルトのファンデーションを、指定したファンデーションに変更する方法について説明します。

▶ 特定のサービス・パックを使用してクライアント・パッケージを作成するには

1. デプロイメント・サーバー上で、ERP 8.0 のデプロイメント環境にログインします。
2. [略式コマンド]から GH9083 メニューにアクセスします。
3. 〈パッケージ・アセンブリ〉アプリケーションを実行します。
4. 〈パッケージの処理〉フォームで、[追加]をクリックします。
5. 〈ファンデーション・コンポーネント〉フォームが表示されるまで、各フォームにパッケージ情報を入力します。
6. 〈ファンデーション・コンポーネント〉フォームで、最下部にある[表示]ボタンをクリックします。
7. 〈ファンデーション・コンポーネントの選択〉フォームで、[追加]をクリックします。



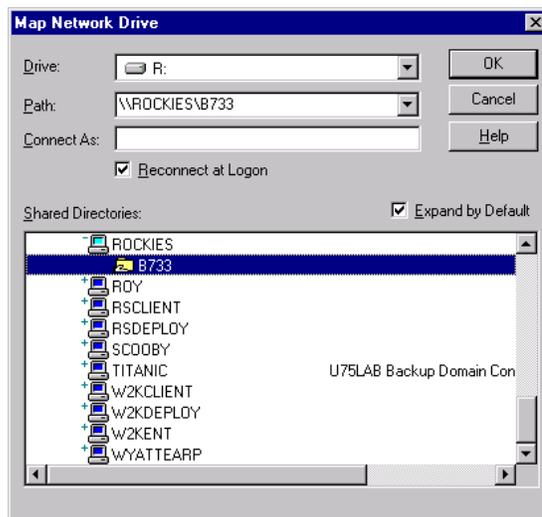
8. 〈ファンデーション項目の改訂〉フォームで、次のフィールドに値を入力します。
- [ファンデーション名] – システム名を入力します。たとえば、“SystemSP14.1”と入力します。
 - [記述] – ファンデーションの詳細記述を入力します。
 - [サービス・パック番号] – ファンデーションのサービス・パック番号を入力します。たとえば、“14.1”と入力します。
 - [リリース] – 基本リリースを入力します。たとえば、“B733”と入力します。
 - [プラットフォーム・タイプ] – クライアントの場合は、“50”または“80”と入力します。どちらも機能します。
 - [ビルド・タイプ] – 最適化を表す“20”を入力します。
 - [ファンデーション・ビルド状況] – ファンデーション使用可能を表す“30”を入力します。
 - [ビルド日] – サービス・パック CD に記載されている日付、または Knowledge Garden®からファイルをダウンロードした日付を入力します。
 - [ビルド時刻] – このフィールドは 00:00:00 のままにします。
 - [基盤マシン・キー] – デプロイメント・サーバー名を入力します。
 - [基盤パス] – パスは手動で入力しないでください。次の手順に従って、使用するシステム・ディレクトリを選択します。
9. 〈ファンデーション項目の改訂〉フォームの最下部で、[表示]ボタンをクリックします。



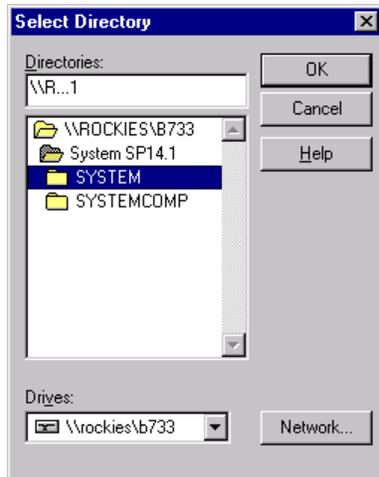
10. <Select Directory(ディレクトリの選択)>フォームで、[Network(ネットワーク)]ボタンをクリックし、使用したいシステム・ディレクトリに移動します。

警告:

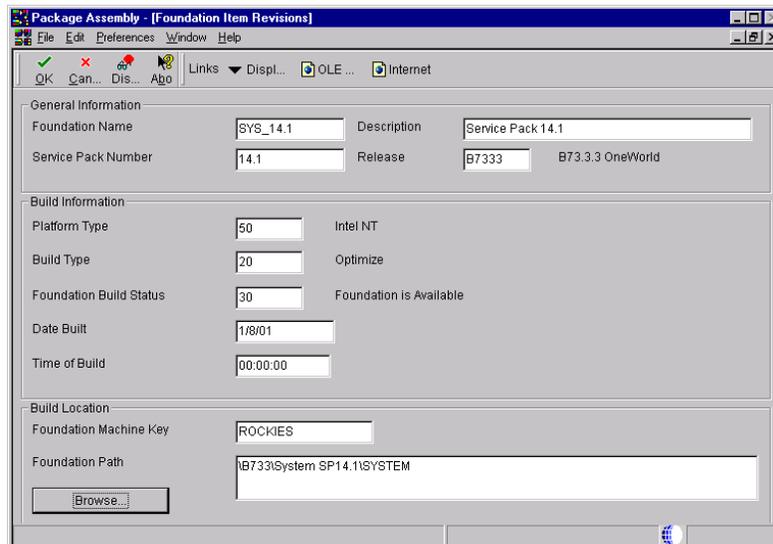
<Select Directory>ウィンドウに表示されるツリーからは、システム・ディレクトリを直接選択しないでください。



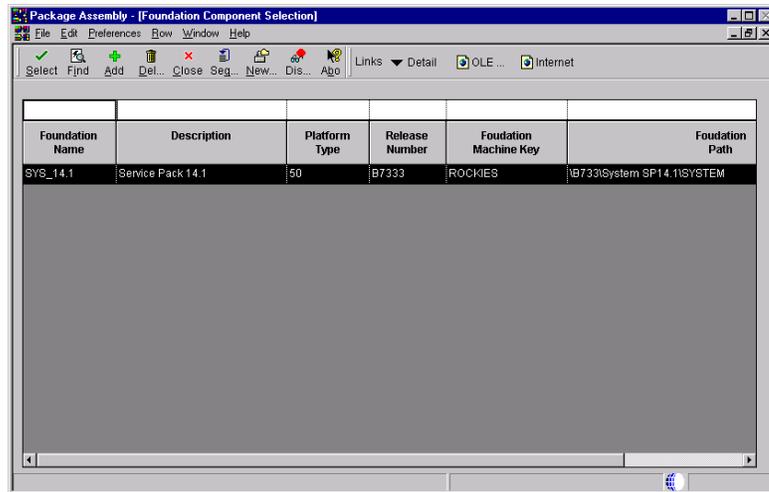
11. <Map Network Drive(ネットワーク・ドライブのマップ)>の<Shared Directories(共有ディレクトリ)>ウィンドウで、ディレクトリをデプロイメント・サーバーのマシン名まで展開し、B733x 共有ディレクトリを選択します。
12. [OK]をクリックします。



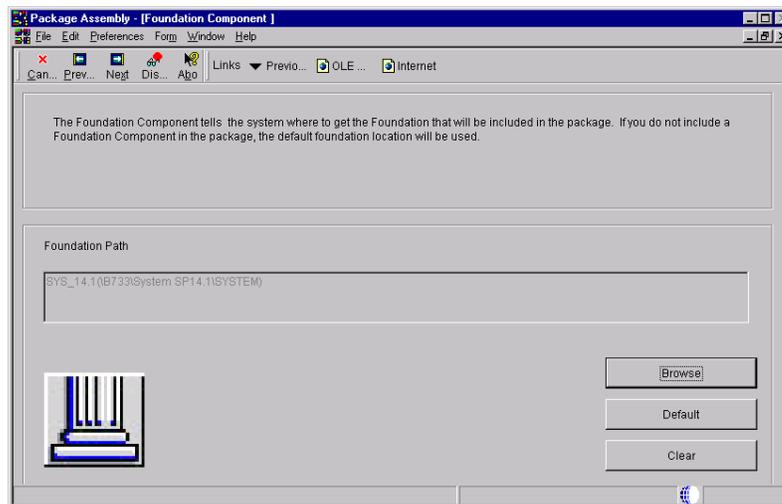
13. <Select Directory>ウィンドウで、¥System SPx¥System ディレクトリに移動して[OK]をクリックします。
14. <ファンデーション項目の改訂>フォームが表示され、選択したシステム・ディレクトリが[基盤パス]フィールドに入力されます。



15. [OK]をクリックします。
16. <ファンデーション・コンポーネントの選択>フォームで、[検索]をクリックします。
入力したファンデーションがグリッドに表示されます。



17. 入力したファンデーションを選んで[選択]をクリックします。



18. <ファンデーション・コンポーネント>フォームで、<基盤パス>ウィンドウにファンデーションへの適切なパスが表示されることを確認します。
19. パッケージのビルドを続けます。

注:

インストールしたすべてのクライアント・パッケージで、同じ JDE.INI が使用されます。従って、[JDENET]セクションのポート番号を、クライアントからアクセスするエンタープライズ・サーバー上のサービス・パックと一致するように編集する必要があります。この手順は、パッケージ・ビルド処理に用意されている「フィーチャー」機能を使用すると自動化できます。この機能の設定方法については、『パッケージ管理』ガイドを参照してください。

デフォルト以外のファンデーションを使用したサーバー・パッケージの作成

次の手順に従って、デフォルト以外のファンデーションを使用してサーバー・パッケージを作成します。

- デプロイメント・サーバーを使用したサーバー・パッケージの作成
- クライアントを使用したサーバー・パッケージの作成

▶ デプロイメント・サーバーからサーバー・パッケージを作成するには

1. デプロイメント・サーバー上で、ERP からログオフします。
2. Windows Explorer で、c:\WINNT ディレクトリに移動して jde.ini ファイルを開きます。
3. [JDENET]セクションを探し、serviceNameList と serviceNameConnect のポート設定を、使用する新規サービス・パック用のサーバー側 jde.ini に入力した設定と一致するように変更します。

[JDENET]

serviceNameList=*portNumber*

serviceNameConnect=*portNumber*

(*portNumber* は、jde.ini ファイルに入力したのと同じポート番号です。)

4. ERP を開き、デプロイメント環境にログインします。
5. 必要なパラメータを使用してサーバー・パッケージを作成します。

▶ クライアントからサーバー・パッケージを作成するには

1. サーバー・パッケージをビルドする新規ファンデーションを含む ERP 9.0 クライアントを選択し、ERP にログインします。
2. 通常の方法でサーバー・パッケージを作成します。

注:

デフォルト以外のファンデーションを使用して、クライアント・パッケージとサーバー・パッケージを同時にビルドする場合は、クライアント・パッケージの作成時に〈ファンデーション・コンポーネント〉フォームに入力したのと同じファンデーションを選択してください。

本稼働用環境への新規ファンデーション・コードのプロモート

新規サービス・パックのテストと承認が完了した後、新規ファンデーションを本稼働用環境にプロモートできます。

▶ 新規ファンデーション・コードを本稼働用環境にプロモートするには

1. エンタープライズ・サーバー上で、次の環境の ERP 9.0 サービスを停止します。
 - 本稼働用にプロモートする環境
 - 本稼働用環境
2. u01/JDEdwardsOneWorld/B733x ディレクトリに移動します。
3. ディレクトリ System Backup を作成し、このディレクトリにシステム・ディレクトリを移動します。
4. u01/JDEdwardsOneWorld/y ディレクトリ(y は新規ファンデーション・コードを含むディレクトリの名前)に移動し、そのシステム・ディレクトリを u01/JDEdwardsOneWorld/B733x ディレクトリにコピーします。
5. u01/JDEdwardsOneWorld/B733x/System Backup/System/bin32 ディレクトリに移動し、jde.ini ファイルを u01/JDEdwardsOneWorld/y/System/bin32 ディレクトリにコピーします。
6. ERP 9.0 のサービスを開始します。
7. デプロイメント・サーバー上で、z:¥JDEdwardsOneWorld¥B733x ディレクトリに移動し、ディレクトリ¥System Backup を作成します。
8. System および SYSTEMCOMP ディレクトリを、System Backup ディレクトリにコピーします。
9. z:¥PeopleSoft¥System SPy ディレクトリ(y はプロモートするサービス・パックのリリース番号)に移動し、system および SYSTEMCOMP ディレクトリを z:¥PeopleSoft¥B733x ディレクトリに移動します。
10. P9654A アプリケーションを使用して、プロモートしたサービス・パックにアクセスする環境を組み込むために各マシン・レコードを編集します。

